

JELA NEWS

ジェラニュース 第29号 2012年11月15日発行 発行責任者 森川 博己

日本福音ルーテル社団 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp 口座番号 00140-0-669206 加入者名 日本福音ルーテル社団

難民支援/アジア子ども支援/ブラジル子ども支援/ボランティア派遣/リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座/奨学金制度/宣教師支援

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

「お前たちは、わたしが飢えているときに食べさせ、のどが乾いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気の見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ、はっきり言っておく、私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、私にしてくれたことなのである。」 マタイによる福音書 25章35節～36節、40節



見よ、わたしはすべてのものを新たにす!

今夏もアメリカ各地でグループ・ワークキャンプが開催されました。日本からは青年6名とスタッフ2名の合計8名をニュージャージー州のキャンプに派遣しました。上に記したのはキャンプのテーマ聖句・ヨハネの黙示録21章5節(口語訳による)です。今回のホームステイでは、元在日短期宣教師マーラ・ウッド姉が役員を務める、オハイオ州のセント・ポール・ルーテル教会のお世話になりました。

[この号にはこんな記事が]

グループ・ワークキャンプ2012参加報告……2 新しいジェラハウスの管理人として(杉本大輔)……4 ディズニーランドありがとう(ジェラハウス利用難民)……4 難民のレシピ本ができます(松本真美)……5 なぜリラ・プレカリアに?(小野崎良子)……6 リラ・プレカリア公開講座情報……7 JELA歴史コラム(長尾博吉)……7 グループワークキャンプ2013年度参加者募集……8 支援者一覧・編集後記……8



●内田芽色(JELC 田園調布 /16 歳)



炎天下、毎日約 6 時間もの労働が続きました。正直、体力的にはとても大変だったけれど、周りの仲間が常に気にかけてくれて、日本語についていろいろ聞いてきてくれたり、仕事の合間にゲームに誘ってくれたり、本当にクルーに恵まれました。ワークは時間が足りず、最終日までに完成させることはできなかったけど、それでもレジデント(*4)の方はとても喜んでお礼を言ってくれました。

●北川桃子(JELC 天王寺 /17 歳)

いつも通りデボーションが始まり、私がイスにもたれたその瞬間、どっちゃん!! 私はイスごと背中から倒れた。一瞬しーんとして、すぐ大きな笑いがおこった。すごく恥ずかしかったけど、クルー 12 人全員で素直に笑えたのは初めてのことだった。

12 人もいるメリットは友達がいっぱいできて楽しいということ。でも、デメリットは

グループができてしまうということ。私はそれがすごく嫌だった。でも、今回のことは私を含めて本当に全員で笑えた。神様が God Sighting(*5)のために私自身を使ってくれたこともすごく嬉しかった。



●梅津若奈(JELC むさしの /17 歳)



私はレジデントの Bob と初めて会った時に、いかつくて無愛想で怖い人だと思いました。作業中一度も奥様を見る機会もなかったので、作業をしつつも心の中で、何のために私は働いているんだろうと思っていました。しかし私たちが何う一週間前に、その奥様が亡くなってしまっていたのです。Bob が一緒にランチ

を食べてくれると申し出てくれた時は、本当にうれしかったです。うまく喋る事が出来ない私に一生懸命話しかけてくれる様子を見て、今まで働いてきて本当に良かったなと思いました。

[脚注]

(*1) クルー：作業仲間

(*2) ブレイクメーカー：作業仲間の役割の一つ(飲食係)

(*3) デボーション：分かち合いの時間

(*4) レジデント：修繕対象の家の住民

(*5) God Sighting：神様が与えてくれた瞬間や出来事

※2013 年度参加者募集要項は 8 ページで
※報告書全文は JELA ホームページで



～神によって新しくされる～



【キャンプの沿革と概要】

1977年、米国コロラド州を襲った大洪水の被災者を支援するために、米国のキリスト教青年書専門出版社「グループ」がボランティアを募り、全米から集まった300人により始まった、貧困地区の家屋修繕と賛美集会を組み合わせたグループ・ワークキャンプ。現在は全米・カナダ及びその周辺の50以上の地域で開催され、様々な教会・教派の青年が毎年全部で数万人参加しています。クリスチャンでなくても参加できますが、すべてのプログラムがクリスチャン向けに計画され、信仰を育む目的で作られています。

今夏の日本人参加者は、マーラ・ウッドさんの教会の若者と交流の時を持ちたり、ホスト・ファミリーのために日本料理をふるまったり、楽しいホームステイを過ごしました。米国滞在半ばの一週間参加したニュージャージー州コロンプスのワークキャンプでは、全米から集まった約300名の青年と共に、キャンプのテーマ「Made」（神によって新しくされる）とテーマ聖句「見よ、わたしはすべてのものを新たにします。」（ヨハネの黙示録21章5節）について学び、分かち合いの時間を持ちながら、奉仕しました。その結果、36棟の家屋を修繕することができました。そしてキャンプ終了後には、前年度お世話になったミネソタ州のセント・ルーク・ルーテル教会（牧師は元在日宣教師デービッド・パーソン先生）の皆さんとも交わりのときが与えられ、幸いです。（キャンプ同行スタッフ・星崎ポール）

日本人参加者の声

●清田愛子(JELC 玉名教会 /15歳)



クルー(*1)との対面があり、ブレイクメーカー(*2)にはなれましたが、自己紹介などの会話には入れなくて泣きそうでした。しかし、作業開始日からはクルーの人たちがたくさん話しかけてくれたので楽しく作業ができました。意見を英語で表現できなかったことはとても辛かったです。しかし毎日みんなで作業をすることで、言葉はあまり通じなくても仲良くなれたと思うし、絆が生まれたのではないかなと思います。

●石居和人(JELC 三鷹教会 /17歳)



今回のキャンプの主題聖句は、「見よ、わたしはすべてのものを新たにす

る。」だった。私は今まで、すべてのものが新しくなることについてはあまり考えたことはない。しかし、それを少しでも意識するようになれば、一日一日が違うふうにみえて、もっと前向きになれると思う。「すべてのものを新たに」にしてくださいのであれば、自分はすべてを受け入れて、神様に委ねることが必要である。だから私は、神様に厚く信仰することから始めようと思う。

●藤野潤(JELC 賀茂川教会 /15歳)



一番印象に残ったのは、木曜日のプログラムです。テーマは、EVERYTHING NEWで、自分自身を布きれにたとえ、自分が今までしてきたことを見つめなおし、神様の基準から外れた分、布を汚す、そして、イエス様が私たちを新しく作るために十字架にかかってくださったことを思い出しながら、夜のプログラムできれいな布と取り換えてもらう、というようなものでした。

このデポジション(*3)で、いままで自分がしてきたあやまちを見つめ直すと、たくさん頭に浮かんできて、この機会にすべて反省しようと思いました。布を取り換えてもらって、神様に赦してもらえたと思うと、軽くなったような感じがして、うれしくなりました。

難民支援

然的に、住民のほとんどは日本に友人・知人がいない、仕事がない又はできない、日本語が話せないなどといった人たちとなります。

何もすることがなく自分の存在意義を疑ってしまいたくなるような状況に置かれている彼らにとって、江戸川ジェラハウスの共有ルームの存在と月2回の日本語クラスの実施は、実用的な意義があるほかに、更なる「居場所」を与えているという点での意義は大きいと感じています。

○居住者どうしの触れ合い

また、今年の8月末には JELA 主催によって江戸川ジェラハウス住民の TDL 小旅行が実現され、私も同伴者として参加させていただきました。非日常的な空間を丸一日共有し、住民どうしで普段以上の思いやりや優しさに触れ合ったことにより、日常の厳しい生活に立ち向かう勇気を与え合ったのではないかと思います。日本の学校生活にも馴染めず、夏休みのほぼ全てを共有ルームで過ごしていた子ども1人も参加しま

したが、普段見せない満面の笑みがとても印象的でした。この笑顔で二学期は何かを変えられるものと確信しています。

日本での難民にとっての状況はまだまだ厳しいですが、私にとっての江戸川ジェラハウス管理人という立場は、管理人としての存在意義と住民の方たちからの元気をもらい、難民の状況を改善するための普段の仕事における意欲となっています。

難民のレシピ本ができます

認定 NPO 法人難民支援協会広報部・松本真美

難民支援協会 (JAR) は、日本に住んでいる難民の方から教えていただいたレシピを集めた料理本を 12 月に出版します。収録されるのは、アジア、中東、アフリカなど 15 の国と地域から寄せられた 40 を超えるレシピ。日本語と英語が併記され、難民の方からの料理にまつわるエピソードや豆知識も紹介します。「料理」という世界共通の言葉を通じて、より多くの方に日本にいる難民のことに関心を寄せていただくきっかけになることを願っています。

このプロジェクトは、マッコリー・グループ・ジャパンの方との協働の中で生まれました。製作を進める中、JELA の方にも関心を寄せていただき、撮影にご協力いただきました。JELA ミッショ

ンセンターで行われた撮影では、ミャンマー (ビルマ) 出身のチン民族の方が参加し、小松菜とジャガイモのカレーやアワを使った主食「ターンナンファン」などを作りました。料理を作っている間も、難民の方がチンの食文化や結婚の習慣などを話してくれました。撮影後には、作った料理を参加者全員で JELA ホールで試食し、とても楽しいひと時を過ごすことができました。

JELA の皆様には、難民の方が住むシェルターのご提供など、日本にいる難民を支えるため、様々な面で協働させていただいております。安らげる場所があることは、難民申請の結果を待ち、先が見えない不安な状況に置かれる難民の方にとって大きな支えになっています。今回のプロジェクトにも JELA ハウスに住んでいる難民の方が数名参加しました。料理をしているときは、故郷での楽しかった食卓が思い出されたのか、皆



さんとても生き活きとしていました。ぜひ本を手に取り、料理に込められている難民の方々の思いを感じてみていただけると幸いです。

●本の情報●

タイトル:「海を渡った故郷の味」

Flavours Without Borders

発売: 12月(予定)

価格: 1,500円

*売上はすべて日本にいる難民のための支援活動に活用されます。

版元: 認定 NPO 法人難民支援協会 (JAR)

発売情報: www.refugee.or.jp/ から

*イベントなどを通じての販売も予定しています。詳しくは、上記ウェブをご覧ください。



難民支援

今回は江戸川ジェラハウス管理人の自己紹介、東京ディズニーランド (TDL) 小旅行を楽しんだハウス居住者の感想、そして JELA ホールで撮影が行われた難民レシピ本に関することをとりあげます。

新しいジェラハウスの管理人として

江戸川ジェラハウス管理人

杉本大輔

○ジェラハウスの存在意義

ジェラハウスは、自力で住居を確保できない難民／庇護希望者 (以下「難民」とする。) に対して、一時的な住む場所を提供している難民シェルターです。難民への法的根拠を持った公的支援が存在

しない日本において、とかく資金力を必要とする難民への住居支援は多くの難民支援 NGO を悩ます問題であり、そんな中でのジェラハウスの存在価値ははかりしれません。また、多種多様な文化を持つ難民たちにとっても日本で生活を始めることは容易ではなく、街の中にあるジェラハウスに住むことにより、日本の習慣や生活に触れながら、日本社会への定住の第一歩を踏むことができます。その上で、難民たちが支援依存を強めて独立精神を損なわないためにも、原則として「一時的」な住居支援となります。

○江戸川ジェラハウスと私

江戸川ジェラハウスは、2つ目のジェ

ラハウスとして、2011年春から、10部屋プラス1共有ルームの体制でスタートしました。私は、江戸川ジェラハウスのスタート時点から管理人としてこの難民シェルター事業に関わらせてもらっています。平日昼間は別団体で難民支援の業務をしていますが、専門が法的支援であるため、ジェラハウス管理人という生活支援の分野は未知の領域です。スタートから1年と数ヶ月が過ぎましたが、期待以上に予期せぬ様々な出来事が次から次へと起こり、貴重な経験を積み重ねてもらっていると感謝しています。

○ジェラハウスと居住者

ジェラハウスは自力で住居を確保できない難民を受け入れているため、必

「ディズニーランドありがとう」

— 小旅行に参加した難民の声 —

杉本さんが同行された東京ディズニーランド (TDL) 小旅行に参加した江戸川ジェラハウスの難民女性から感謝のメールが、ハウスで彼女たちに日本語を教えているボランティアの先生に届きました。じつは、このTDL小旅行は、ボランティアの先生方からJELAに助言があり実現したものです。原文は動画絵文字をたくさんあしらった可愛いメールでした。オリジナルのまま掲載できませんが、雰囲気は十分に味わっていただけるのではないかと思います。

こんばんは、大好きな先生、
昨日、やっとディズニーに行きました。
雨で、あゆみさんたちも疲れたけれども、
私たちは、とても楽しかったです…。
先生のおかげです。
ずっとこういばかりで、
楽しめるZENEROでしたが昨日、
気楽になりました。
美味いごちそう、
お土産代まで、いただいたので…
とても感動する。
ありがとうございました。
また20日お待ちしています…
先生もお元気に、
もともとお幸せになれるように
お祈りしています…
お世話さま

江戸川ジェラハウスの共通ルームでは日本人のボランティアの方が月に2回、居住者に日本語を教えてください、人間的な触れ合いの場となっています。この活動にたくさんの方が加わってください、いろいろな新しいアイデアがわいてくるかもしれません。ご興味のある方は、JELA事務局・松岡 (電話03-3447-1521) まで気軽にお問い合わせください。



左端:管理人杉本氏

リラ・プレカリア(祈りのたて琴)



公開講座

2013年度は1月から!

リラ・プレカリア(祈りのたて琴)では2013年度も様々な講師をお呼びして、詩編・看取り・スピリチュアルケア等について学べる公開講座を1月～6月に実施予定です。最初は、本プログラム・ディレクターのキャロル・サクによる「詩編：人生の3つの時期」(1月10日木曜日)です。ご期待ください。以下は、2012年度に実施した講座の一部に関する受講者の感想です。

◇植松功先生の『テゼ』の講座について(今回初めて開講しました)

- ・沈黙の心地よさを教えて頂きました。
- ・テゼのことを初めて詳しく知ることができました。
- ・歌には力がある、繰り返しには力があるというお話が印象的でした、忘れません。
- ・テゼの曲は、私自身の心に触れました。これらの曲を周囲にも伝えたいと思いました。

◇橋本周子先生の『グレゴリオ聖歌』の講座について

- ・「あなたが歌うから、あなたの祈りになる」という言葉が印象的でした。
- ・目で見えるものから、音として聴くことで心に入ってくるのが、とても素直にしみました。
- ・聖書の言葉を歌として歌うことで、読むのとは違うことを学びました。
- ・音楽大学でグレゴリオ聖歌について少し学んだ経験があるのですが、それとは違い、信仰のある方のお話は、そこまでは学べなかった沢山のことを語ってくださった気がします。

JELA 歴史コラム その9 「時が良くて、悪くて」



JELA 常務理事・長尾博吉

本コラムその7(ジェラニュース第21号<2010年4月15日発行>掲載)において、敗戦直後の福音宣教の進展について触れました。駐留米軍の保護下であって、また円ドルの為替レートが1ドル360円という国際経済環境の中にあって、日本のキリスト教会は、所謂キリスト教ブームの中にありました。キリスト教は戦勝国の宗教であり、我が国は敗戦国であるため、その通貨の価値はドルに対し360分の1であったのです。そのような環境の中で、米国からは多くの宣教師が送られ、その強いドルの支援の下に多くの教会が再興されてゆきました。よってその教勢が進展するのは当然の結果でありました。

日本の教会の力では果たせなかったラジオ伝道が功を奏し、ルーテル・アワー

によってルーテル教会の名を知らないタクシーの運転手はいないほどでした。タクシーの運転手はその職業柄ラジオをよく聞いていたため、自然と耳に残ったルーテル・アワーです。また三ヶ年にわたりなされたテレビ伝道、千葉茂樹監督の「世界のお母さん」も、世界のルーテル教会より多額の支援を受けました。

しかし、やがて国際経済状況が変化を見せ、円高ドル安時代に突入しました。これによってあれほど強かったドルの価値が徐々に下がり、米国教会よりの支援が期待できなくなりました。そこで日本の教会は、海外支援教会よりの支援なしには、日本宣教の継続は難しくなることを予測していましたので、それに代わる宣教資金対策を収益事業に求めたのでした。本社团もこれに協力して、百人町の宣教師館敷地を売却し、その資金を以って市ヶ谷会館(音楽ホールと宿泊施設)の建設に協力したのでした。

このことは、日本の教会の宣教事業に留まらず、米国教会による宣教師派遣事業にも次第にその影響が及び始めました。米国教会よりの日本宣教への資金は次第に枯渇してきたため、本社团と米国

教会の協議の結果、財政的に様々な形で日本と米国に円&ドル・ファンドを設け、宣教事業の継続に備えました。人間社会において、福音の宣教に従事するには、他の事業と同様にそれなりの資金が必要となります。本社团はその宣教事業を支えるためにその必要資金を当初は米国教会の支援金をもって充てていましたが、1990年以降は宣教資産の資金運用においてそれを賄ってきています。ところが最近の世界経済の不況により資金運用の不確実性が増大してきています。

私達が住むこの社会は、確かに経済という大きな力によって支配されています。ともすると経済が全てであるかのような錯覚に陥りかねません。しかし、この社会においても神の国においても聖書の神様が全てなのです。要するに、パウロが愛弟子テモテに「聖言葉を宣べ伝えなさい。時が良くて悪くて、それを励みなさい。」と奨めるように、この世の権力に迫害される時も擁護される時も、教勢が衰え財力に乏しくなっても豊かであっても、頼るべきは、この世界と神の国の主である聖書の神様のみであり、その主に信頼して宣教に励むべきでしょう。

リラ・プレカリア(祈りのたて琴)



リラ・プレカリア 4 期研修講座は現在 2 学期に入り、授業も歌とハープのレッスンも本格的な内容を学んでいます。

4 期生の一人、札幌にお住いだっただ小野崎良子さんは、この研修講座を受講するために今年の 4 月から東京での生活を開始され、一生懸命学んでいらっしゃいます。今回は、小野崎さんのリラ・プレカリアとの出会いや受講に至る経緯をご紹介します。

.....

なぜリラ・プレカリアに？

カトリック小野幌教会 小野崎良子

○いただいた名前

「わたしは主のしもべ」。イグナチオの霊操に与っていただいた名前でした。霊操には 3 回ほど与った経験がありますが、3 回とも同じ名前をいただいたのです。内心もう少し可愛い、あるいはロマンチックな呼び名がほしいと思っていました。たとえば「御父の愛娘」とか、「聖霊の花嫁」とか……。

○最初は無理

退職を前にした数年間はその後の生活について思い巡らしながら生活していました。そんなときラジオでキャロルさんのリラ・プレカリアについてのお話を聞きました。早速資料を送っていただいたのですが、ムリ無理。東京で 2 年間も無理。私には札幌の生活もあるし。と簡単に切り捨てていました。退職後の道の識別のために霊操に与ったとき、夢の形で示されたのが「医療関係」と「子ども」というキーワードでした。そしてこの時もイエスが、身を屈め弟子の足を洗うという奴隷の仕事を自ら示され、「あなた方もお互いに仕え合いなさい」という



JELA ホールで持たれた開講式で、4 期生の仲間と。中央が小野崎さん

メッセージをくださったのです。

○一步踏み出す

2011 年秋、再びリラから送られてきた「第 1 期生募集」の案内を前に、何が無理かと考え始めました。その頃、札幌教区の Y 神父様は時にウィークリーマンションに暮らしながら、不自由なお体で病気治療のため全国を転々とされていました。私は健康で元気なのに何をためらっているのでしょうか。前後して与った黙想会でアヴィラの聖テレサが困難の中、次々と改革修道院を創立していったエネルギーにあやかりたいと「テレサが決断し、創立を果たして行った決め手は何？」と神父様にお尋ねしました。「探すことです」とたった一言。私の心を見透かされたようなフレキシブルなお答えでした。探すためには一步を踏み出す必要があります。そんな訳でリラに飛び込んだのです。

○死への備え

20 歳でカトリックの洗礼を受け、その頃から「死の準備」を指導司祭から教えていただきました。人は臨終のとき、サ

タンの誘惑に会うと言います。どんな形なのかそれぞれの人生で違うとは思いますが、そんな時、その人が孤独に陥って最期の戦いに負けないように傍らで、できれば耳元で祈るのですよと。

○いただいた名前とリラ・プレカリア

「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」とのイエスの招きへのお手伝いがリラ・プレカリアをとおしてできるなら「Psallmos(詩編)」を奏でる「Minstrel(吟遊詩人：ministry 神のしもべと同じ語源)」が私に示された名前と考えることもできましょう。リラの学びと活動がいつも主のみ心にかなうものであるようお願いしながら、4 人の仲間と共に楽しく歩んでいます。



2013 年度アメリカ・ワークキャンプ参加者募集

(グループ・ワークキャンプ)

以下の要領で参加者を約 10 名 (最少実施人数 5 名) 募集します。申込期限は 2013 年 1 月末日(必着)です。

◆派遣期間：2013 年 7 月 24 日(水)～8 月 7 日(水)

◆内容：ニューヨーク州(またはその近辺の州)でのホームステイとワークキャンプ(家屋修繕、聖書の学び等、参加者の信仰的・人間的成長を促すプログラム)に参加。



◆参加費用：はじめての参加者＝25 万円、その他の参加者＝30 万円。
パスポート・ビザ取得費用及び海外旅行保険費用は別途自己負担です。

◆問合せ・申込用紙請求先：

日本福音ルーテル社団(JELA)
住所：150-0013 渋谷区恵比寿
1-20-26
電話：03-3447-1521
ファクス：03-3447-1523
E-mail: jela@jela.or.jp

◆選抜方法：2013 年 1 月末日までに到着した申込書の中から派遣者を決定し、2 月中に派遣の可否を申込者に連絡します。なお、初回参加者を優先します。

<注意事項>

!2013 年 8 月 1 日現在の年齢が 14 歳～20 歳の方が応募できます。
”ルーテル教会員でなくても、クリス

チャンでなくても参加できますが、聖書を学び話し合う時間が毎日あり、すべての行事に積極的に加わることが求められます。

#日 本から数名の成人が同行し、霊的・言語的側面から日本人参加者を支えます。

\$ 米国の主催団体との手続きに時間がかかるため、申込期限が 1 月末日になっています。

% 派遣確定通知受領から出発までの間にキャンセルする場合は、やむを得ない場合を除き、その時点までに発生した費用の返還はできませんのでご了承ください。また新型インフルエンザの発生など、出発前後の国内外の様々な事情により、日本からの派遣を中止する場合がありますので、ご承知おきください。

& 米国渡航にあたってはパスポートが必要ですので、お持ちでない方、更新が必要な方は、派遣確定通知受領後速やかに取得手続きを行ってください。

’ 派遣確定者には、日本福音ルーテル教会が毎年 3 月下旬に実施している青少年向けキャンプ「春の全国 Teens キャンプ」(春キャン)への参加をお勧めしています。教会になじみのない方は、クリスチャンのキャンプを体験しておくことが望ましく、米国に行く仲間どうしが出発前に親しくなる機会でもあります。「春キャン」の詳しい情報は、米国派遣決定通知送付の際にお知らせします。

以上



(2012年6月1日～8月31日)

青木孝士／穂田信子／安藤淑子／飯村洋子／石崎勝／石森京子／和泉哲雄／伊藤節子／ウエスト東京ユニオンチャーチ／大塚眞佐子／大中真理／加藤裕子／京谷信代／清宮正行・晶子／小林休・今野七重／小松かつみ／小松由美／佐久原百合子／佐藤至英／杉浦りえ／関野和彦・信子／高尾堯／高澤光代／高田紀子／JELC 玉名教会／田山かほる／鳥飼勝隆・豊子／長田ひろみ／日本基督教団鳴子教会／西立野園子／野口玲子／萩原耕介／長谷川美子／服部令子／早瀬康平／平間多喜子／古川博子／宮本裕美／牟田青子／森部信・榮子／若原奇美子／渡辺聡／山口敏子／山本了・その他匿名複数

以上、敬称略

ご支援ありがとうございます。匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせ下さい。

編集後記

むかし通った教会の祈りの時間。突然誰かが指名され、みんなを代表して祈るように求められる。恥ずかしいのか、誰にも聞こえない小声で祈る人もいた。神に向けた祈りである以上、信徒全員の気持ちが一つとなり、神様への感謝と賛美を表すものでありたいいつも思っていた。最近、私の思いにぴったりの祈り会に出会った。テゼである。リラ・プレカリアの公開講座でとりあげられたのを契機に、私は毎月参加するようになった。詩編や聖書の一部を何度も繰り返し歌う祈り。合間に持たれる長い沈黙の祈り。自分の内面をさぐりつつも、空間を共有する人々との一体感が感じられ、神の愛に包まれるような豊かな体験。無用な言葉が氾濫する日々の生活を振り返るとき、テゼ祈り会のシンプルな祈り、沈黙の祈りがもつ力強さと充実感に、深い喜びをおぼえるのである。(M)